

笠松式くりわなS型の上手なかけ方

基本 : シカの特徴を知ってわなをかける

① 行動が慎重で警戒心が強いので、見慣れた景色が変化したり
通り道(足もと)に変化があったりすることを嫌います。

- だから
- わなを設置する場所を必要以上に掘り起こして形状を変えたりしない。
掘って残った土や切除した木の根などは臭いが強いので、その場に残さないで離れた場所(300m位)に捨てる。
 - 埋設するわなの上には細かい枯れ葉や細かい土で覆い、わなが見えないように自然な状態にし、違和感がないように元通りにする。できなければ、わなの前後の落ち葉や枝を除去して新しい通り道(けもの道)だと思わせるよう環境を整える。
 - シカは木の根や枝、石などの障害物を避けて通るので、足跡の周辺にある障害物を利用して、足で踏む場所にわなを設置する。
 - わなの臭いや光沢を雨や水にさらして消す。
 - わなには素手でさわらないでゴム手袋などして作業する。
 - 作業は手短に行う。
 - シカが活発に行動する日の出、日の入前後の時間帯に作業をしたり見回ったりしない。
 - 見回りなどでシカ道(けもの道)を歩かない。
 - 義務づけられているわなの標識は、シカに気づかれないように、目立たないような高い位置に取り付ける。風に揺られて音のしないよう、光らないように2点でしっかり取り付ける。(ぶらぶらさせない)

② 安全に食べられる場所を学習して、習慣化します。
通り道(けもの道)を繰り返し利用します。

- だから
- 餌場、ぬた場(遊び場)に行く通り道(けもの道)に設置する。
 - わなを設置する場所は、通り道(けもの道)の傾斜地よりも平坦な場所を選ぶ。
足跡が濃くて、道幅が狭い場所を選ぶ。
<理由> かけやすい、歩幅が安定するので予測しやすい、雨などで流れない
 - 好む植物等がある餌場や通り道(けもの道)を監視カメラなどで知る。
 - 餌場を人工的に作りシカを誘引する。
 - 米ぬか : 安くて効果もあるが、シシも掛かる
 - ハイキューブ(干した牧草を固めたもの) : 30kgで4000円位
 - ユクル(誘鹿剤) : 鉄分でシカを誘引する固形状、5kg×4個で20000円位
雨にも強く、なめるだけなので半年くらい持続する
 - 同じ場所で何頭も取ろうと繰り返さないで、設置場所を変える。
 - 設置から2週間くらいで捕獲できなければ、移動する。
<原因> 通り道(けもの道)ではない。
通り道であっても踏む位置でない。
空打ちになっている。(小動物、イノシシ、覆いを確認、雨の影響)